

小樽別院だより

新春を迎えて

輪番教重文雄

新年おめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。旧年中はご法義の繁盛と別院の護持発展にご尽力を賜り、お蔭をもち、新年を迎えることができましたこと、有難く御礼申し上げます。

ご門徒の皆さまをはじめ、関係各位におかれましてもご家族おそろいで新春をお迎えのこととごころからお慶び申し上げます。去年四月下旬、命により小樽別院輪番を拝命し、職員はもとよりご門徒各位のご協力により、「総参拝」百

発行所
小樽別院
小樽市若松1丁目4番17号
〒047 TEL0134-22-0744
編集・発行人
教重文雄

小樽に念仏の友垣の輪をひろめよう

”念仏の声を世界に子や孫に、”



版画「本願寺全景」作者 徳力富吉郎 画伯

日参拝「日曜仏教講座」の開催を始め「別院だより」の発行と、別院の充実と発展を目ざして歩を続けてまいりました。お蔭をもち毎朝の参拝者も寒空にもかかわらず二十名から五十名のご参詣をいただいております。本年はより一層の充実を計っていくこととございます。それがための別院とご門徒との絆を強化してまいります。詳細については今後関係者との協議を通じて実行に移してまいりますのでご案内の節はご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。さて、新年を迎えて、すぐ思ひ出させることが二つあります。一つは博多の仙崖和尚の言葉です。「春は称名に入つて、口始めて開く。声は高し、無量寿如来。億土西方、遠しといふな。一夜、東風、千里の梅」と詩っておられますが、しみじみとお念仏申し、み仏のお慈悲を戴くこととあります。いま一つは蓮如上人「御一代記聞書」の第一条であります。「一。勸修寺村の道徳、明応二年正月一日に御前へまいりたるに、蓮如上人おうせられさうらふ。道徳はいくつになるぞ、道徳念仏まうさるべし。自力の念仏といふは、念仏おほくまうして仏にまいらせ、このもうしたる功德にて、仏のたすけ給はんずるやうにおもふてとなふるなり。他力といふは、弥陀をたのみ一念おこるとき、やがて御助けにあづかるなり。そのち念仏まうすは、御たすけありたるありがたき」と思ふところをよろこびて、南無阿彌陀仏と申ばかりなり。されば他力とは他のちからといふこと、ろなり。この一念臨終までとほりて往生するなりとおほせさふらふなり」。

山、願寺にほど近いところに、真言宗の勸修寺という寺があります。この在所に道徳という人がいました。俗名を中村源六郎といい、剃髪して法名を道徳といたしました。明応二年は蓮如上人七十九歳の御時で、道徳は蓮如上人より二、三歳年上だったと言われているので、この時は八十歳を過ぎていたものと思われ、上人の年頭を挨拶にいられた道徳に、上人がいきなり「道徳いづくつになりにぞ」と問われるのです。なぜ上人が道徳の年齢を問われたのでしょうか。上人の弟子の一人である道徳の年を存知していないはずはないのです。これは道徳が長寿を得たこととめでたいことであると思つていられるのではないかと、上人はかれの心を見抜いてこのような言葉を出されたものと思われまふ。日頃の心情をよく知つておられる上人だけに、年頭の挨拶が空々しく感ぜられたのかもしれない。私たちが念仏者にとつては、年齢が加わつたということだけではめでたくもなく、また尊いこととは言えないというのを、よく学んでおくことが大切でしょう。

そして同時に「御文章」の四帖目第四通の「それ秋もさり春もさりて年月をおくること昨日も過ぎ今日すぐ。いつのまにかは年老のつもるらんともおぼえずしらざりき。……：……：ただいたずらにあかし、いたずらにくらして、老のしらがとなりはてぬる身のありさまこそかなしけれ。」とあることはなども、よく味うことです。恐らく道徳は、上人から年齢を聞かれたとき、自分は何歳になつたと答えたことでしょうか。しかし、上人は相槌を打つことなく、ただちに「道徳念仏申さるべし」というきびしい言葉でのぞまれたのです。このことは、無益な挨拶よりも、まず念仏を申すことが大切である、信心決定こそが大切であると説めた上人の、開法、伝道についてのきびしいお心がうかがわれるのであります。ともすれば、世俗のことに引きずられて、肝腎の念仏が相續できない

ような道徳の心を見抜いて、厳しく誠められたのが「聞書」の第一条、元旦に話された法語です。新春を迎え「仏法は聴聞にきわまる」との仰せを心新たに味わいたいものであります。



小樽別院仏壯会長 小紙文隆

明けましておめでとうございませう。本年もよろしくお願い申し上げます。

人生を語る

私の歩み

「境内の柳と人生」

小樽別院総代 辻長吉



別院の山門をくぐって右に大きな柳の木があります。あの柳と私の人生とは何か深い因縁があるよう近頃感じて居ります。私は当年七十五才となりましたが、十才の頃よりお寺の近隣で育ち、朝夕の鐘を時計代りに、腕白時代は境内はホームグラウンド、そしてあの柳に登り、当時の柳は木肌も青くすべくと実に美しい青年の樹、それが今では見上げるような老木となり、永年鐘の音、読経の声、お香の煙を身にして立派に立派にあたかも悟りを開いた老僧の如く重々しい風格、そして暖かく信者を見守り居ります。その間、門前町もずいぶん変わりました。私の青年の頃までは今の国道は朝市として栄え朝早くから馬を引いた農家が集まり商いする間お寺の扉には数多くの馬が繋がれていたものでした。それ等数々の移り変りをあの柳はじつと見て、春夏秋冬それ／＼に総てを包み暖かく何か心に安らぎを与えてくれて居ります。私もあの市場より発足し青果一筋七十才まで働かせてもらい私に取りましてはお寺は余りにも身近で、あの柳の木のように、自然に信仰、お念仏は常に心の底に流れて参りました。いわゆる門前の

小僧のなんとやらでしようか。現在退職して私なりにいろ／＼のボランティアで奉仕させていたゞいて居りますが、日一日を感謝しみ仏の教えを守りあの柳の木に恥じない人生を送りたいと感じて居る近頃です。

「感謝の生活」

小樽別院総代 高橋米蔵



別院の報恩講法要も終り木々の枯れ葉が落ちて初冬を迎えるこの頃、私もこの十二

日で七十三才の老人であります。平均寿命がいかに延びようと「人生五十年」という言葉は永遠の真理ではないかと存じます。二十年も長生きさせていただいたことは儲けものと思っております。み仏の救いによるものと仏恩感謝するとともに更らに、まだこれからの残りの人生こそ大切に老後をいかに美しく生きるかに心がけたいと思っております。私はこの長い七十余年の人生を多勢の子供の成長と独立を築きみにサラーマン生活で暮してまいりました。戦争中の食糧難と物資等の困窮には自分の生活を初め勤務先の会社は昼夜の区別なく務め終戦とともに会社を円満退職し、小樽市に住居を定め商人の道を選び素人の商売のみずかしさと苦勞の連続でありましたが、今では健康で商を続けさせて頂くことができましたことは偏えにみ仏のご加護によるものと感謝しお念仏を称え力強く今後もおくらさせて頂きたいと思っております。

合掌

「新春を迎えて」

小樽別院仏婦役員 北川敬子



新春御芽出度う御座居ます。私の父は教員でした生れは清水沢であちこちと転任の末夕張郡由仁町より昭和五年北川家に嫁いで参りました。食品の小売でした、二十年頃より食品製造卸業となり親子七人今日有るは姑女のお蔭。朝に晩になんまんだぶ御仏に手を合せねばお食事をいたゞく事も出来ぬ暮してました。仕事の合間には御仏の御縁を喜び二人揃ってお仏いする。後姿を見て私も後に続く様心掛けます。子供達三人お嫁さん三人共に主人を助け会社にはげん中から家中揃て一年の計は元旦に有り別院納骨堂へとお参りし心身共にさわやかに帰て来ます戦後すつと続けて居ります。これも一重に如来様のお蔭と感謝の日暮しまだ／＼致らぬ自分ですが、正しい道を聞分けてみ仏を念ずる心の証を立てたいと年頭にあたりいつも思つて居ります心の一端を述べて見ました。

私もお勤めもすでにやめ、今年七月一日から始まりました百日参拝を機に毎朝お参りさせて頂いたゞく様になりました。百日と一言で申しましたが果して続くかどうかという不安の気持ちでいっぱいでした。その上寒くなってきました、もとより体のあまり丈夫でないため一層不安がつりました何が何とかならず十月八日

「百日参拝を終えて」

嶋田アイ子



私が別院に入りし始めたのは義父母が亡くなってから。早いものでもう八年になりました。

私もお勤めもすでにやめ、今年七月一日から始まりました百日参拝を機に毎朝お参りさせて頂いたゞく様になりました。百日と一言で申しましたが果して続くかどうかという不安の気持ちでいっぱいでした。その上寒くなってきました、もとより体のあまり丈夫でないため一層不安がつりました何が何とかならず十月八日

に百日目を終えました時はさすがに充実感でいっぱいでした。これも御仏様のお蔭と感謝しております。これからは益々寒さが厳しくなりますが、御先祖様のお導きと共に健康でお参りさせて頂いたゞければと思っております。合掌

◆説教所紹介

樹心会 大久保繁 唯信講 坪川和代

奥沢・天神方面は従来農耕の地として発展、更に工業好適の地として目差され、広く発展を見るこの地に別院としても、お念仏の輪を高める地区道場としての説教所開設を念願していた折、昭和五年、別院職員であった吉川四郎氏(新潟県出身)が自分の居宅(汐見台町)を別院に寄贈され、更に故星野氏の氏が奥沢六丁目の土地百坪(現在地よりやや下)を五ヶ年間無償にて貸与されるを以つて、吉川氏の居宅をその地に移転し開所するに至ります。その後、町内の繁栄、町民の増大に伴い教場の手狭を感じつつある処に、同星野氏の氏より現在地の土地三百坪の寄進を受け、又、奥沢小学校新築移転に伴い、その建物を譲り受け、移転し現存するのであります。時に昭和九年一月、建築委員が中心となり、門信徒各位の多大な御懇念の元に、入仏式同年十一月十八日に催し、当時は各町内の会館もなく、当教場に於て、お念仏を慶ぶ講が多くなされ、又年回、葬儀、会合にと広く利用され発展をみました。建築以来約五十年の風雪に堪えながらも、毎月五日には樹心会、十日には唯信講が地元の方々と共に、お念仏を慶ばせて頂いております。開所以来十代目の現齋藤義隆主任と共に参ります説教所、別院、本山の発展を六十余名の会員講員と共に念じます。

総合燃料 住宅設備機器

高橋燃料商事株式会社

●小樽市稲穂 2-7-18
●TEL (22)-2188

三菱石油株式会社特約店

株式会社 荒田商会

取締役社長 荒田清司

本社 小樽市堺町 7-16 電話23-6261(代)
堺町給油所 小樽市堺町 7-16 電話23-6261(代)
長橋給油所 小樽市長橋 2-16-1 電話32-0836



別院 修正会元旦

—六時三十分—法要・法話—
—ご流盃・記念品贈呈—

新年の始まりに当って、元旦の朝は、修正会(元旦会)が午前六時三十分から別院本堂で勤まる、お勤に続いて、元旦章の拝読、年頭に當って、輪番の挨拶並びに法活が行われて、交礼会に合せてご流盃の儀が催される、ご流盃とは仏前に供えた御酒を参詣者につき一同盃を傾けて新年の出発を祝いあうことである。

今回は盃を京都からとり寄せて、参詣一同に参拝記念品として贈呈する。家族そろって多数の参詣を期待しております。

別院 百日参拝

終了者 名

—十二月二十二日百日参拝者の集—

去る七月一日から始めた百日参拝は、去る十月八日の百日目に十名の方が連続参拝を終えた、その後続々と終了者が出て、十一月末現在で計三十二名を数えた、その後も二百日を過ぎて寒空の中に早朝参拝を続けている。参拝者総数は百十七名であり、十二月二十二日十一時三十分から昼食を共に「百日参拝者の集い」を催して、共に苦勞のほどを語り合うことにした。

「百日参拝終了者氏名」計三十二名
嶋田 アイ子 有田 フミ

元旦や、冥土の旅の一里塚
めでたくもあり
めでたくもなければ

明日を開く 日曜仏教講座

一月十日、十七日、九時三十分 頑張っています



参勤 齊藤義隆

昭和十五年胆振管内早来町の浄願寺に出生し、お念仏と共に育てられました。同二十五年、五月、十一月に父母と死別し、高校生であった兄を頭に五人の子供が戦後の混乱時期を送ると云う暗い思い出があります。高校迄は壇信徒の方々の暖いお心によって卒業させて頂きました。其の後は自身生きる為だけの生活となり、職業を変え、十余年、然し考えるに、色々な職業の人達との出会い、経験、話し合い等人生にとってプラスの面が多々ありました。四十七年、三十二才にして得度を受け、別院の職員として着任、後、中央仏教学院の通信教育を受け、教師、法務員、事務員の資格を得、

奉職以来九年八月の才月が流れております。数多くの諸先輩の絶大な御支援、御援助を頂き毎日法務に邁進させて頂いております。五十四年の四月より、約一年半若竹説教所の主任として勤務、昨年九月奥沢説教所の主任として勤務、若輩ながら、樹心会員、唯信講員六十数名の会員の方々のお力を得、増々お念仏にこそしみ仏恩奉謝の日々を送らせて頂いております。家庭には、妻と二才九ヶ月に成ろうとする子供がおります。お気軽にお立ち寄り下さいませ。

小樽幼稚園教諭 杉山成子



私が幼稚園再就職の時、子供が五才、三才、一才と子育てに無中のときでした。このお話は、頂きほんの二、三年のつもりが、はや九年と七ヶ月、月日のたつ早さに本当に驚いています。

今日は頭が重いなあと思いつつも、お寺の門をくぐり子供達の顔をみるとたん、すっきり、しゃっきり、今私が病気になる事なく、これたのも、大先輩の本間先生、若き先生方に助けられ、そして、毎日子供達と体操、相模、縄飛、野球といつときもじっとしていない子供達との生活、「先生いくつて」との質問に「うん」先生は二十五才よ、「うん、うちのママより若いね、なんて、こんなうそがいつまでもつづけられるやらと、ゼいたくな悩みをもちながらも、みんなと手を合せる気持が一体となつていふことがここまでこれたものと思っております。

これからは、一年、一年を大事に大事にしながらか元気に頑張っていくと思っております。

若竹保育園 下山浩子



私がこの道を選んだのは、ある素晴らしい保育者との邂逅によるものでした。以来八年目、初めて、

新光保育園 川口美由紀



私は、三人姉妹の末っ子で、わがまま一杯に育って来ました。現在、両親と姉夫婦と子供達との七人の大家族が一切をやってくれているので、夏は海に、冬はスキーにと、好きなことをしている毎日です。

そんな私も、来年の三月で保育園も丸七年になります。保育園に入ったのも、つい先日の事のように思われます。最初の頃は、無我無中で何が何んだったかわからなかったのが、この頃は少し余裕が出て来たのか、可愛くて来年の修了式の事を思うと、今から淋しくてしかたがありません。でも残り少ない四ヶ月を、有意義に思い出深い毎日にならうと、張り切っています。

謹賀新年

別院顧問

松川嘉太郎

私がこの道を選んだのは、ある素晴らしい保育者との邂逅によるものでした。以来八年目、初めて、

責任役員

竹田 清治

総代

高山 隆行

総代

長谷川 才一

総代

毛利 悌雄

総代

辻 長吉

総代

高橋 米蔵

総代

渡辺 徳太郎

土木建築請負
設計・施工・監理
株式会社
カネタ 中組

代表取締役 田中 修次

小樽市稲穂五丁目十番十八号
TEL 三三一七五七五

あなたとの話

豊かな人生をめざして

担当 教重 文雄

◆問、お正月のかざりものは必要か (小樽別院仏青)

答、お正月になると、世間一般では、門松を立てたり、しめかざりをつけたり、その他いろいろなかざりものをこしらえて、縁起を祝います。が真宗の門徒はそんなことをしなくてもいいのです。それは、たんなる規則や、約束ではなく、がんらい門松や、しめかざりは、もと神さまを迎えるために取りつけられた儀式で、神さまに祈って、禍いをはらい、福を与えてもらおうという考えがあるのです。またいろいろな飾りものをして、縁起を祝うのも、方角のよしあしを占い、日のよしあしを占う意識につながったことが多いのです。あくまで真実の道理によって生きぬくまことの信仰からいえば、そんな現世祈りや、方角や日のよしあしを占う必要がないから、通りいっぺんの儀礼を行わないのです。

親鸞聖人は、「化身土文類末」に「般舟三昧経を引いて、「この念仏(三昧)を開いて学ばんと欲せんものは…余道につかうること得され、天を拝すること、鬼神をまつること、吉良日を視ると得され」といわれています。

こころが聞きたい

真宗門徒の俳人小林一茶が、五十歳のとき書いた「おらが春」の中に「門松立てず、煤(すす)はかず、雪の山路の曲りなりに、ことしの春もあなたまかせになんむかへる。目出度さも中位なりおらが春、」といっていますが、こたわりやとらわれを離れて、まことの念仏に、中道を生きぬく人のおおらかさがあるといえましょう。

◆別院ご門徒えのお知らせ

- 一、修正会(元旦会) 一月元旦午前六時三十分より勤行、続いて法話、交礼会、家族揃ってご参詣下さい。
- 二、新年法務(月忌)始め、一月六日から始めます。
- 三、日曜仏教講座案内、一月十日(第二日曜)、十七日(第三日曜)九時三十分から十時三十分まで、四、毎月一日、十六日総参拝日、十六日は聖人のご命日につき、朝参りと昼午後一時三十分からの二回勤めております。
- 五、一月定例法座、一月十三日から十六日まで、六、各説教所定例法座開催、新年会が催されるところもありますので案内をよくみて参詣下さい。

▲御本山御正忌報恩講法要ご案内、一月九日から十六日まで七昼夜八日間にわたってご修行になります。●物品寄贈御芳名

- 一、輪番用七条袈裟二着、夏、合物
- 一、奥沢説教所登礼盤一式、奥沢 坪川和代 殿、一、奥沢説教所内陣アコーデオン、天神町 中村トキ 殿、一、別院本堂ジュータン、富岡町 小竹一郎 殿、一、別院対面所アコーデオンカーテン、匿名、一、別院事務所茶ダンス一式、宮本みい 殿、一、掲示板 一枚、嶋田アイ子 殿、田中修次 殿、一、別院事務所マガジラック、匿名、以上、有難く感謝申し上げます。

後記

●一九八一年も過ぎんとして、本年を省りみるに、いろいろな出来事がおこったが、内外共に明るい出来ごとより、暗い出来ごとの方が多かった。「人生は難度海」という聖人の言葉が身にしみる。●筆者も四月下旬に赴任、関係各位の理解と協力により、「百日参拝」「総参拝」「日曜講座」そして「別院だより」の発行と生き生きとした寺づくりを目指してきたが、まだまだ一里塚、一九八二年は、各説教所の充実と別院役員の連続研修会を旨としている。●この冬は降雪の量も多く、例年より寒さの襲来が早いとのこと、くれぐれも、ご自愛のうえ、お念仏相続を……合掌

謹賀新年

緑説教所

主任 西 正美
無量講一同
代表 稲 健治

若竹説教所

主任 村上 隆昌
代表 野村 寛吾

奥沢説教所

主任 斉藤 義隆
樹心会一同代表 大久保繁
唯信講一同代表 坪川和代

新光説教所

主任 高柳 広章
法友会一同
代表 牧田佐太郎

別院参与

宮本土建会社社長
宮本 裕三

別院参与

北川食品株式会社社長
北川 紋二

別院参与

若竹彰心会顧問
山本 卯一郎

暮らしを彩るニューデザイン
インテリア・ファッション



家具の 小樽和
小樽産業会館筋向い角
☎0134-一代(25)6363

頌春

元旦